

# 歴史にみる雪対策

市民による雪踏みや馬そりを利用した除排雪から始まった札幌の雪対策。快適な暮らしへの要望から、除排雪体制は年々進歩してきましたが、同時に掛かる費用も増加してきました。

## 道路除雪費などの変遷



### 除排雪に馬そりを使用



明治19 (1886) 年にロシアから馬そりが輸入され除雪に使用された。その後、雪の運搬にも使われるようになった。

### 近代除雪の始まり



昭和42 (1967) 年からは札幌オリンピックに向け、除排雪体制の強化を図り、除雪機械を大幅に増やした。

### ロードヒーティングが活躍



平成14年には、市が管理するロードヒーティングの設置個所が過去最高の504カ所に。幹線道路の坂道を中心に配置された。

### 融雪槽による雪の処理



ごみ焼却場などの熱を利用し、雪を溶かす融雪槽。平成17年に11カ所目設置された。融雪槽では設置場所周辺の雪が処理されている。

このほかにも、凍結路面对策や雪たい積場の増設など、さまざまな取り組みを行ってきましたが…

## 現状の雪対策の維持は難しい状況に

長引く景気低迷のため、市の財政は非常に厳しい状態が続いています。予算総額が減少を続けている中、道路除雪費は前年と同額程度を確保していますが、今後は生活道路の排雪など身近な雪対策事業の維持さえ難しい状況になっています。

